

# 令和6年度 印西市民アカデミーだより 第11号

## 講座 15 : 地域防災について学ぶ

災害は突然やってきます。近年は自然災害が毎年のように発生し、万が一に備えておく必要性を強く感じている方も多いのではないのでしょうか。そこで、10月11日（金）、防災士の資格を持ち、地域防災計画関連業務等で活躍を続けている「INZAI みんなの防災プロジェクト」の星野氏を講師に招き、地域防災について学びました。講座では、災害時に起こり得る、リアルな場面での対応を考えさせられる発問も多く、災害について当事者意識をもって学ぶことができました。

災害が起きたとき、人はどんなことに困るのでしょうか。それは人それぞれです。災害が起きたときの環境の変化だけを把握するのではなく、環境の変化により起こり得る困りごとを、平時に把握しておくことが大切です。地震発生的心得として、突然の揺れでもケガをしないように備えておくこと。①部屋の中を安全にしておくこと（L字金具、つっぱり棒・ストッパーによる家具の固定）、②窓ガラスには「飛散防止フィルム」を貼る、③非常持ち出し袋を準備する（普通の旅行のときの持ち物+持ち運びできる範囲の水と食料+自分の健康のために必要なもの）避難所環境について、非常持ち出し袋の準備、避難場所、連絡方法を家族と共有しておくこと③倒壊の恐れがなければできれば自宅で過ごすこと、明かり、水、食料、携帯トイレの備蓄の重要性についての講義がありました。



## 講座 16 : 市民活動について学ぶ1

10月18日（金）、印西市市民活動支援センターのスタッフならびに市内で活動している市民活動団体の代表の方々を講師に招いて、講座「市民活動について学ぶ」を開催しました。

はじめに、市民活動支援センター長の小林氏から、市内の市民活動団体の活動状況や当センターの役割などについてお話していただきました。次に、2つの団体から活動の目的や活動状況について説明を受けました。団体「勇気づけサークルでこぼこピース」は、アドラー心理学を研究し、子育て支援としての市民活動を行っており、団体「だがしや あめちゃん」は、子どもに駄菓子を提供し、居場所をつくることで、何らかの理由で学校に行くことができない子どもたちを応援する市民活動を行い、将来は子ども食堂の設立を目指しているとのことでした。

日頃、「NPO」「市民活動」「ボランティア活動」という言葉はよく聞きますが、実際、どのような活動をしているのか、活動資金はどのようにしているのか等の具体的なことはよく分かっておらず、今回の講座で、その疑問が解消できました。現在、多くの市民アカデミー卒業生が、自分たちのまちをよくしたいという強い思いをもって、市民活動団体を設立したり、既存の市民活動団体に参加したりして、活躍の場を広げています。



令和6年度

# 印西市民アカデミーだより

第12号

## 講座17：歴史散策「東国三社詣」

東国三社とは、鹿島神宮（茨城県）、香取神宮（千葉県）、息栖神社（茨城県）の三つの神社を指し、国譲り神話に由来することで、昔から信仰を集めていた関東有数のパワースポットです。江戸時代になると、江戸の文人墨客、庶民の東国三社（鹿島神宮、香取神宮、息栖神社）を巡拝する旅が盛んになり、日本橋小網町を小舟で出発し、小名木川・新川・江戸川を經由して行徳河岸に至り、そこから徒歩で木下河岸に向かい、木下茶船に乗り、利根川を下って三社に向かいました。記録には、木下河岸を出る船数は、安政年間(1772～)には、年間約4,400～4,500隻にも達していて、往時の木下河岸の繁栄がうかがえます。今回は、船に代わりバスで三社を巡り、その魅力を探る旅に出ました。



日本書紀と香取大神

10月31日(木)、印西市役所を出発し、利根川沿いの道を約1時間走り香取神宮に到着。朱色の二の鳥居から入り、大きな石灯籠が並ぶ坂道を登っていき、総門・楼門をくぐり本殿へ。本殿は、檜皮葺、黒漆を基調とした色合いに極彩色で彩りを加え、御神意の大きさを感じさせます。次に楼門より旧参道を西へ進み、地震を起こす大鯨を抑えるため地中深くまで差し込んでいるとされる霊石「要石」に立ち寄り、さらに経津主大神の荒魂を祀る「奥宮」を参拝して終了。鹿島神宮に向かう。



鹿島神宮の社殿は北向き

鹿島神宮の大鳥居から入り、日本三大楼門の一つに数えられる楼門をくぐり、本宮、摂社の高房社を参拝。本殿の檜皮葺の屋根の美しさが目を引きます。参拝後、鬱蒼とした巨木に覆われ荘厳な雰囲気醸し出している奥参道を歩み奥宮に向かう。途中、「さざれ石」と「鹿園」に立ち寄り。奥宮の前の旧坂を下り、古くからの禊の場である御手洗池に向かう。御手洗池のほとりに、樹齢600年の杉の巨木の切り株が残っている。これは、東日本大震災で倒壊した御影石製の鳥居に替わり、境内に自生する杉の巨木を用いた同寸法の大鳥居を再建したおりに使われた巨木の1本である。急坂を上り、地震を起こす大鯨の頭を押さえている鎮石ともいわれる「要石」を見学し、昼食後、息栖神社に向かう。



日本三霊泉：「息栖神社の忍潮井」

息栖神社では、一の鳥居の両脇にある二つの四角い井戸「忍潮井」を見学。伊勢の「明星井」、山城の「直井」と並び「日本三霊泉」の一つ。それぞれの井戸の中を覗くとうっすらと瓶が見え、銚子の形をしているものを「男甕」、やや小ぶりの土器の形をしているものを「女甕」と呼んでいます。

天候にも恵まれ、さわやかな秋空の下、古代ロマンを感じながらの楽しい「現代版：東国三社巡り」となりました。

# 令和6年度 印西市民アカデミーだより 第13号

## 講座18：福祉について学ぶ

11月22日(金)、印西市役所福祉部職員を講師に招いて、市の福祉制度(障がい福祉・高齢者福祉・介護福祉)について学びました。

障がい福祉関係では、はじめに障がい者に関するマークについて学びました。マークの意味を知っていることにより、障がい者に適切な対応が図れることとなります。次に、**障害者手帳の種類・申請方法**について学びました。日常生活や社会生活を送るのに相当な制限を受ける状態にある人は、障害者手帳の対象となります。障がい者には、様々な福祉制度が整えられており、居宅介護や療養介護、自立訓練等の様々な**障害福祉サービス**を利用することができます。



高齢者福祉関係では、**超高齢化社会**にどう対応していくかについて学びました。超高齢社会が進むということは、介護が必要な人が増える、認知症の人が増える、支える世代、介護職が不足する等の様々な課題が社会問題化してくることが予想されます。しかしながら、65歳を超えても元気で、仕事や趣味活動、ボランティア活動等の社会参加をして現役で活躍している人たちも多くなっています。社会参加への頻度が高いほど介護予防効果が高まるというデータも出ています。自分自身の生きがい、健康づくりにつながる地域活動に少しでも興味があれば参加してみましょう。

介護福祉関係では、**介護保険**について学びました。介護保険は、介護が必要になった方が地域で安心して暮らしていくための制度で、介護が必要になったときには、費用の一部(1~3割)を負担することで**介護保険サービス**を利用できます。

これからの超高齢化社会に向けて、「自分ならどうする!？」という視点で、健康なうちに様々な情報を仕入れ準備しておくことが豊かな老後に繋がることを改めて考える機会となりました。

## 講座19：市民活動について学ぶ

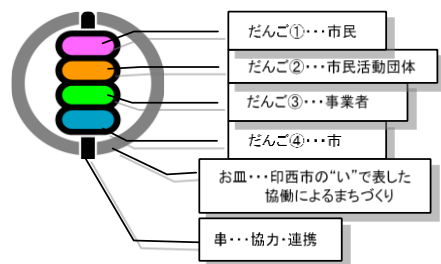
12月20日(金)、市民活動推進課の職員を講師に招いて「市民活動」について学びました。印西市民アカデミーでは、卒業後、アカデミーで学んだことや体験したことを活かして、市民活動やボランティア活動等に積極的に関わり印西市の発展に寄与するという大きな目標があります。

今回は、①市民活動/NPOとは? ②印西市の取り組み ③ワークショップ「公共サービスは誰が担うべき?~市民と自治体の役割分担について考えよう~」の三部構成で学びました。市民活動とは、市民が互いに協力し、地域社会のさまざまな課題に向かって、主体的・自主的に取り組む、営利を目的としない、開かれた活動(ただし、宗教、政治、選挙活動を除く)のこと。

NPOとは、市民が主体となって継続的、自発的に社会貢献活動を行う、営利を目的としない民間団体(法人格の有無は問わない)のことです。

近年、市民ニーズの多様化による新しい地方分権社会の創造、複雑化する地域課題に対応するためNPOとの協働による行政サービスの提供が推進されるようになりました。印西市では、市民が安心して市民活動・地域活動ができるように「市民活動保険(市民活動総合保障制度)」を用意しています。

市民活動に関するイメージシンボル



# 令和6年度 印西市民アカデミーだより 第14号

## 講座20：「自然に潜む数学」

1月31日(金)、生涯学習課社会教育指導員が講師となり、「自然に潜む数学」講座を実施しました。「大人になってから学ぶからこそ、楽しい発見に満ちた数学の世界」をテーマに、電卓を用いた不思議な法則や簡単数学マジックを体験した後、自然界に存在するフィボナッチ数列について学びました。

フィボナッチ数列とは、1,1,2,3,5,8,13,21・・・のように、前の数字を足した数が続く数列のことで、隣り合う2数の比を分数で表すと、黄金比である「1.618」に限りなく近づいていきます。この比は、自然界や芸術作品の中によく表れ、「人間が最も美しいと感じる比＝黄金比」といわれています。そして、これらの数列と比は、植物、動物、貝殻など、自然界のさまざまな場面で観察され、芸術作品など、デザインを思考する上でも、欠かせない概念となっています。

参加した学生からは、「日常の事象にある数学的な見方や考え方に触れる機会となり、改めて学ぶことの楽しさと驚きに感動しました。まさに大人になってから学ぶからこそ楽しい発見に満ちた数学の世界だった」との感想をいただきました。



## 講座21：歴史散策「戸定邸」他

2月21日(金)、市バスを利用して、松戸市にある戸定邸と千葉県西部防災センターを見学してきました。戸定邸は、西に江戸川の流れを望む見晴らしの良い戸定が丘の台地の上に所在しています。江戸時代の松戸塾は、江戸と水戸を結ぶ水戸街道の宿場町として栄え、隣の小金宿には水戸家専用の旅館がありました。水戸藩最後の藩主だった徳川昭武は、1884年(明治17年)、戸定が丘に自分の隠居所として水戸徳川家別邸を構えました。この屋敷は、江戸時代の大名家敷を伝える数少ない貴重な木造建築です。戸定邸表座敷棟の南と西には、徳川昭武が建物との調和に心血を注いだ芝生の庭園が広がっています。洋風技法による芝生面は我が国最古で、樹林の木立を主景観に取り入れる手法は類例がありません。当日は、天候にも恵まれ、表座敷棟からは、フランス・パリをはじめ、海外を歴訪した徳川明武がこだわりぬいた庭園、そして西側に霊峰富士を望むという、贅沢な眺望を堪能することができました。

歴史公園内で昼食を済ませた後、近隣にある千葉県西部防災センターに向かいました。当センターは、災害から暮らしや町を守るための情報や体験を楽しみながら学ぶことができる施設です。体験ツアーに参加し、改めて防災に対する意識を高めることができました。



# 令和6年度 印西市民アカデミーだより 第15号

## 講座22：「第25期生卒業論集発表会」

3月1日（土）、印西市文化ホールにて「第25期生卒業論集発表会」が開催されました。

文化ホールでの開催は今回が初めてとなり、当日は174名もの来場者が訪れ、盛大な雰囲気の中で発表会が行われました。第25期生は9名と少人数でしたが、その分各自の持ち味を最大限に生かし、チーム一丸となって卒業論文の作成に取り組みました。今回の発表会では、「住み続けたいまち ふるさと いんざい」をメインテーマに掲げ、印西の歴史、自然、文化、福祉、そしてまちづくりについて、以下、6つの小テーマを設定しました。

1「谷津に育まれた古村の寺社会」、2「身近にみる野草と薬草」、3「高花6丁目西地区まちづくり運動」  
4「データセンターと世界のINZAI」、5「人生100年時代をどう生きるか」、6「ふるさと木下音頭」

これらのテーマを通じて、さまざまな角度から印西の魅力と可能性を探りました。メンバーは自ら現地を訪れ、実際の様子をその目で確認し、地域の人々との対話を重ねるなど、丁寧な取材を行いました。その結果、これまで広く知られることがなかった印西の隠れた魅力を解き明かすことができました。発表で使用された写真や映像は、多くがメンバー自身の視点で捉えたオリジナルの作品でした。さらに、研究成果を分かりやすく伝えるだけでなく、寸劇を交えるなどユーモアあふれた発表は、来場者から非常に高い評価を受けました。



※ 卒業論集は市内の図書館、公民館、コミュニティーセンターで閲覧することができます。

## 祝 印西市民アカデミー卒業式

3月23日（日）、印西市文化ホール多目的室において、印西市民アカデミー第25期生の卒業式が執り行われました。当日は、藤代健吾学長（市長）による式辞の中で、卒業生一人ひとりへの対話と語りかけがありました。式典は、凛とした雰囲気の中にも和やかさが感じられるものとなり、卒業生にとって心に深く残るものとなりました。

現在、卒業生たちはアカデミーでの経験を活かし、市民活動団体やボランティア活動団体などで活躍しています。また、町内会長や自治会長、市の各種委員を務める方も多数いらっしゃいます。彼らは、行政では手が届かない部分を補いながら、「住み続けたいまち ふるさと いんざい」の実現を目指して活動しています。このような姿こそ、アカデミー生の使命であると確信しています。

卒業生の今後ますますのご活躍を心より期待しています。

